

「まっすぐ」 ～まっすぐはどこにあるのか？～

使徒9：1～25

先週、素敵になろうというメッセージを取り次ぎました。誰も敵対するものいなくなるようになることが素敵の本来の意味でした。今週、私たちはその道をまっすぐ歩みなさいと言われていました。では“まっすぐ”とはどこで学んできたのでしょうか。神が造った自然界には“まっすぐ”になっているものは何1つありません。唯一、人の心にだけまっすぐがあるのです。他のものではなく、人の心にまっすぐを与えて、その心で感じた通りに歩みなさいといっているのです。人はすでに備わっているまっすぐに従って歩むように努力はしています。しかし曲がりくねったことになってしまっているのです。神が人を創造する時「われわれに似るように」といって造られています。私たちは神に似せられて作られているにも関わらず、違ったことをしていたのでは意味がありません。私たちにはまっすぐな道を歩むことができるように心に良心をあたえ、何が正しいことなのか、間違っていることなのかを判断することができます。しかし正しい方向へ進むことができず、間違った方向へ進ませるのは私たちのプライドや感情です。それは対面、世間体、人の目、他人との比較などと表現しますが、まっすぐに歩もうとする事を邪魔していきます。何か問題が起こるたびに道を外していくようになります。アダムとエバが罪を犯した時、神の前に自分がまっすぐに歩むように他人を犠牲にするような発言をしたが、結果としては本来のまっすぐとは真逆の道を歩むようになってしまいました。（使徒9：1～）ダマスコとは現在のシリアのダマスカスです。サウロはダマスコへの途上でイエスと出会います。サウロの歩んでいた道は曲がった道でした。自分たちの律法に縛られて生きていたのです。自分が正しいと判断したことに従って行く時、それが間違った道を歩んでいることに気づかなくなることが1番恐ろしいことです。聖書は私たちを自由にしますが一度自由になるとその状態を維持するようになります。神さまに出会って赦しを体験すると私たちは赦されたことを保とうとします。どのようにするべきなのかを日々の生活で神様に聞きながら行うことができれば可能ですが、それをするのは難しいかもしれません。それを保つためにルールを作ってしまった方が楽です。ルールを作るのはただ単にガードレールを作るようなものです。その中を歩めばOKという“形”になってしまいます。しかし私たちはイエスがどのように歩まれたかをみながら「まっすぐ」に歩いていく必要があります。癒しや奇跡を見ても、1つとして同じようにしている部分はありません。私たちの心の中に善悪を判断する秤があります。それは良心や理性とも表現することができます。これが人にあるのはアダムとエバが罪を犯した故です。それまでは神さまから聞いて行っていました。原罪が入ってからは自分で判断できるようになり、正しいことだと分かってもしたくないと思うようになりました。それによってアダムとエバは自分を守るために責任転嫁をし、正しいまっすぐな道から外れてしまいました。パウロも「したくない事してしまい、するべきことができない」と語っています。私たちは自分の弱さを認め、罪を認め、悔い改めていく日々をすごしていきたいと思えます。私たちが変わる方法は私たちの中にある秤をしっかりと理解することから始まります。この秤を神の言葉と照らし合わせながら実践していくだけです。私たちのまっすぐな道は曲がりくねっていないのでしょうか。もしくははっきりと見えていたにも関わらず、本当にそうなのかなあ～という疑問によって段々見えなくなっていないのでしょうか。まっすぐの道を妨げるのは嘘ではなく、疑問（疑い）です。敵である悪魔は嘘で近づいてくるのではなく、疑問を投げかけてきます。また、サウロが間違っていたように伝承や自分が生きてきた中で身につけてきた価値観やルールなどで生きていないのでしょうか。神さまは時に適いまっすぐな道を御言葉、環境、周りの人々などから教えて下さいます。神さまのまっすぐな道は人によって違いはなく、すべての人が同じ価値観を持っています。それは神さまは人を造るとき、「われわれに似るように」造られたからです。私たちの心の内では正しい価値観があるのですが、「でもね…しかし…」と言い訳が出てきてしまうのです。私たちの思いをちょっとだけずらして、曲げていくのです。（箴言10：9、14：12～13、23：19）イエスは私が道であり、真理であり、命なのですと正しい道を示してくれています。サウロは律法を守るためなら、人殺しをも容認していました。本来の人の道から逸れていたのです。私たちはイエスキリストに贖われたものとして自分のルールや生き方に従って思い思いの歩みをするのではなく、主を求めて主と共に歩む人生とならなければいけません。聖書を学び知識は増えるかもしれませんが、しかしまっすぐ歩む妨げとなるのであれば意味がありません。また聞く耳が塞がれてしまい、心が頑なになってしまうことも同様です。まっすぐを見出すには①心に主を認めることです。サウロは小さき者という意味であるが、実際はそうではなく、傲慢でした。しかしイエスに出会ってからは違いました。今まで得てきたものを糞土のように思い、元の自分の姿に戻らないといけません。（箴3：4～8）自分の知恵ではなく、今、こうしなさいといっている主の声を聞き歩んでいきましょう。まっすぐを見出すには②主に叫ぶ。苦しみも、感謝も（詩107：6～8）私たちがまっすぐ歩むためには主を求めないといけません。私たちの苦悩を主に叫ぶことができれば、主は必ず応えてくれます。私たちの苦悩を周りの人にぶつけてはいけません。（エレミヤ33：3）主にさげばないといけません。そして神がどのような答えを下されるのかを見ていきましょう。ヨシュアがエリコを獲得するとき、民はまっすぐの道を歩み裏工作などをしませんでした。主に言われた通りを行い勝利を得ました。まっすぐを見出すには③まっすぐを築くことです。（ルカ3：4～6）私たちは主の通られる道をまっすぐにするために今まっすぐを築いているのです。今週の神の前で感動していきましょう。神さまはすごい！がまっすぐになります。神さまは私たちを感動させてくれます。この感動がまっすぐ歩む原動力となります。私たちの後を通る人々がいます。私たちの心にある正しい事を行い、主の通られる道をまっすぐにしていきましょう。（要約者：平澤 一浩）